



2022年2月14日

各 位

会社名 株式会社キムラタン  
 代表者名 代表取締役 清川 浩志  
 (コード番号8107 東証第1部)  
 問合せ先 常務取締役 木村 裕輔  
 (電話 078-806-8234)

2022年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年11月10日に公表いたしました2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 2022年3月期通期連結業績予想の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,500	百万円 △210	百万円 △220	百万円 △230	円 銭 △1.57
今回修正予想(B)	4,100	△480	△500	△520	△3.53
増減額(B-A)	△400	△270	△280	△290	—
増減率(%)	△8.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績(2021年3月期)	4,708	△437	△434	△416	△3.15

2. 通期連結業績予想の修正の理由

当第3四半期におきましては、10月以降、感染者数が大幅に減少し、緊急事態宣言も解除されたことで消費マインドは持ち直しつつありましたが、前半は気温の高い日が多く、秋冬物衣料の販売は低調な推移となりました。11月中旬以降は気温の冷え込みとともに冬物の動きが活性化し、既存店売上も前年を上回るペースまで回復しましたが、序盤の落とし込みをカバーするには至りませんでした。ネット通販におきましても、第2四半期までの落ち込みからは持ち直しつつあるものの、当初計画を下回る推移となりました。

損益面では、売上高の計画未達に加え、主として値引き率の大幅抑制には至らず、粗利益率の改善が目標には届かなかったことにより、各段階損益は計画値を下回る結果となりました。

上記に加え、新型コロナウイルス感染症の第6波による第4四半期業績へのマイナスの影響を織り込んだうえで、通期の業績予想を修正することいたしました。

なお、本日公表いたしました「事業ポートフォリオの転換に関するお知らせ」に記載のとおり、当社はこの厳しい現況と真摯に向き合い、抜本的な経営再建と財務基盤の強化を果たしていくために、当社アパレル事業の大幅縮小と不動産事業の拡大を柱とする事業ポートフォリオの転換を決定いたしました。この事業ポートフォリオの転換が、当第4四半期以降の業績に与える影響については、詳細を精査中であり、現時点においては未確定であります。

今後、詳細の確定により開示が必要となる場合は、速やかに開示を行います。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上